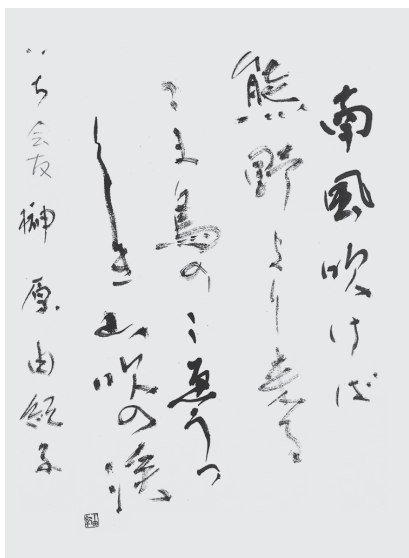


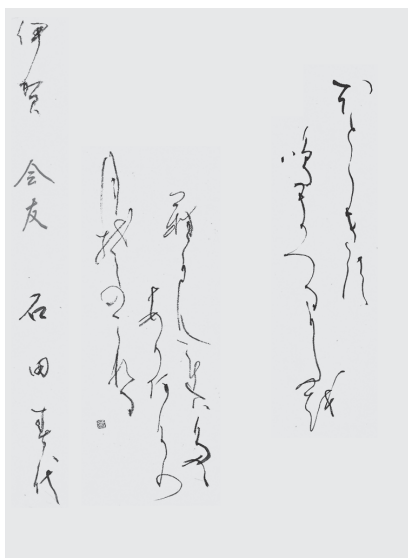
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



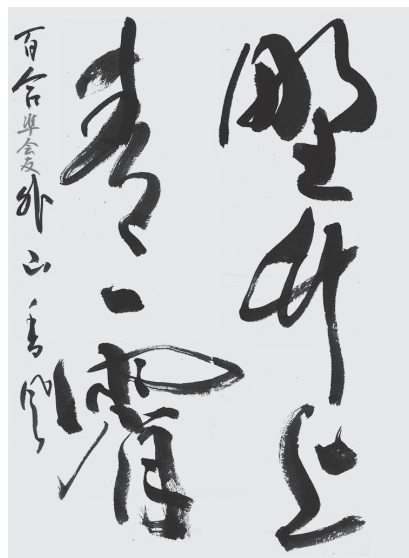
いち 榊原 由紀子 自然体で、単体ながら四行が実に響き合い、潤渇も美しい。端正ながら樂趣あり心とむ作となった。
(審査評 吉家 桂雪)

【かな半紙】



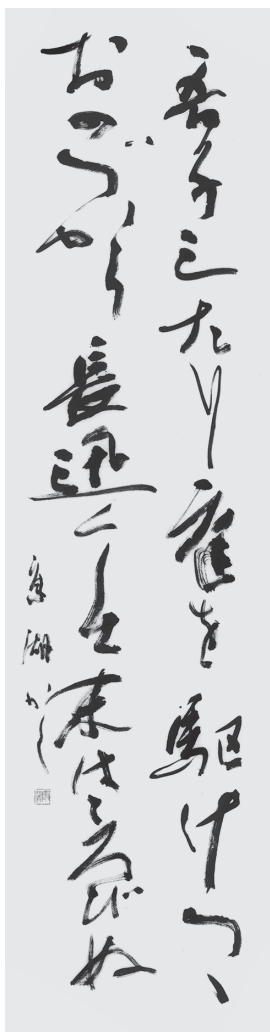
伊賀 石田 春代 前半二行と後半三行の疎と密の表現のバランスがよく、全体に明るく美しい作品に仕上がった。
(審査評 岩浪 春鳥)

【漢字半紙】



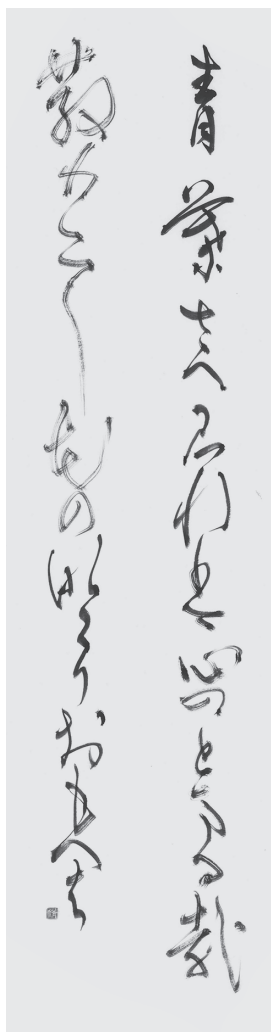
百合 外山 香風 筆遣いは自由闊達、まさに五月の青空に真っ直ぐ伸びる竹の如くしなやかな線が印象的、特に「霄」が趣深い。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



新書 宮城 康湖 漢字とかなが白い部分を活かす様にバランスよく配字され、作品を明るく氣勢のあるものにした。造形の妙も楽しめた。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな条幅】



白山 松岡 清翠 開閉自在な筆から強く勢いのある線が紡がれた。自然な流れと変化が美しく、躍動感に満ちた作。
(審査評 川島 史子)

【漢字条幅】



松 角田 茅水 墨色の冴えが、「これぞ墨書作品」という感を抱かせる。奇を衒った造型もなく、ゆったりと觀賞出来る秀作。
(審査評 永井 香樹)

6月提出の競書の写真版全作品は、6月25日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

今月の優秀作品

子安 藤田 花
乗幽 控癖

友和 六 新屋 翠泉
野竹上 青霄

書学 八 吉原 典子
野竹上 青霄

松本 準吉 土方 豊子
野竹上 青霄

乗女 倉反 能望 美心
野竹上 青霄

信長 坂本 恵理子
乗幽 控癖

佐伊 一郎 部 一代
野竹上 青霄

若宮 渡邊 士洋
野竹上 青霄

水差 八 川上 後泉
野竹上 青霄

五三 志山 瑞生
野竹上 青霄

乳 脇谷 大彩
乗幽 控癖

松島 雄六 櫻井 多恵
野竹上 青霄

川書 田中 珠翠
野竹上 青霄

小諸 八 花園 梨華
野竹上 青霄

松 金角 白茅 氏
野竹上 青霄

書学 阿部 久江
乗幽 控癖

福星 中野 香穂
乗幽 控癖

唐崎 山本 和美
野竹上 青霄

水差 八 藤 久美
野竹上 青霄

千原 辨別 安子 菜市 彩
野竹上 青霄

書学 四 安部 薫
乗幽 控癖

書学 川村 三彩子
乗幽 控癖

川書 小林 秀徳
野竹上 青霄

水差 八 重 和敏
野竹上 青霄

西宮 朝日 登 三橋 五子
野竹上 青霄

青葉 中川 麻子
乗幽 控癖

南条 五 田中 信典
乗幽 控癖

若書 六 加藤 絹代
野竹上 青霄

書学 八 倉沢 宗映
野竹上 青霄

東山 三子 坊 藤典子
野竹上 青霄

三河宮田寛典 4
控乗
穿幽

埴A 阿部彩子 2
控乗
穿幽

湯山 初葉美晴初
控乗
穿幽

格筆 高橋圭子
控乗
穿幽

玲玉洋画 清嶋真由美
控乗
穿幽

書学 田中真子
控乗
穿幽

青松 松介到子 2
控乗
穿幽

書学 廣木真理子
控乗
穿幽

書学 二 瀧奈美子
控乗
穿幽

書学 一 倉平山先崎優杏
控乗
穿幽

書学 林 千晶 5
控乗
穿幽

書学 林 実千子 2
控乗
穿幽

書学 林 幸子
控乗
穿幽

書学 一 山根美枝子
控乗
穿幽

松寿 井上小野島正忠
控乗
穿幽

青玄 南淳子 5
控乗
穿幽

唐麻 山田菜穂子
控乗
穿幽

書学 長田侑子
控乗
穿幽

書学 三 安藤雅子
控乗
穿幽

書学 三 宮下香奈
控乗
穿幽

修 向井十忠美 6
火龍
帝師

瑞樹 宇田菜月 3
控乗
穿幽

小岩 岡部智子 1
控乗
穿幽

追浜 平田智世
控乗
穿幽

書学 三 伊澤佳那
控乗
穿幽

修 坂比呂子 5
火龍
帝師

書学 志木若菜 3
控乗
穿幽

青梅 辻政子 1
控乗
穿幽

書学 初安田朋未
控乗
穿幽

書学 三 根本伊織
控乗
穿幽

啼鳥愛繁陰

紀子 出

大井 宮本 紀子

茂林脩竹又有清流
激湍映帶左右

茂代 出

水荃 山崎 茂代

茂林脩竹又有清流
激湍映帶左右

香織 出

秀芳 秋葉 香織

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

龍玉書 出

書字 金子奈緒美

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

岩子 出

岩書 伊藤 信子

龍師
火帝

書字

西澤あやね

龍師
火帝

書字

田上鈔陽子

啼鳥愛繁陰

幸江 出

書字 常住 幸江

茂林脩竹又有清流
激湍映帶左右

詩遙 出

書字 加藤 詩遙

茂林脩竹又有清流
激湍映帶左右

文江 出

書字 阿部 文江

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

志風 出

九書 井上 恵子

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

輝水 出

愛山 渡邊 輝水

龍師
火帝

春日

横手 友紀子

龍師
火帝

もも

佐々木 理恵

啼鳥愛繁陰

亞美 出

若里 佐藤 亞美

啼鳥愛繁陰

香蘭 出

書字 松本 康乃

茂林脩竹又有清流
激湍映帶左右

昌代 出

兵庫 谷垣 昌代

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

孝水書 出

書字 石井 孝夫

快事今宵逢眼福一
函閣帖凜精神

孝夫 出

加茂 土田真奈未

龍師
火帝

大楠

堀越響希

龍師
火帝

春日

粟本 翠花

から 半七段 久高 幸村
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

書学 準八 佐藤 美起
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

香泉 準八 橋本 香泉
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

西宮 合友 中島 美幸
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

一人 半七 宮崎 忠華
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

永岳 準八 宮部 環心
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

桃前 準八 森 新太郎
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

池田 合友 岡田 美智代
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

大井 六神野 直美
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

月倫 七 清水 君子
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

伊賀 八 奥谷 領代
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

鏡念 準八 名田 美珠
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

青古 六段 南 瑞純
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

伊賀 七 増田 孝子
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

光風 八 池田 巖井
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

ちげ 準八 友長 淑恵
 月夜
 ありては
 月夜
 ありては
 月夜

大竹 準三 杉浦 隆子

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 準四 増田 清華

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 佐藤 郁子

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

青空 準六段 久米 寿美

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 準三 仲野 美香

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

宇土 準四 古園 生英子

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

三学 準五段 天野 静恵

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

水鏡 準六 佐藤 若宥

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

翠 二段 大越 将美

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 三松 田 徳子

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

翠湖 四段 櫻 田 湖舟

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 五 小島 英雪

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 二山 水 京市

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

南丘 三 小野 雅也

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 四段 萩 野 弘

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

書学 五 遠 藤 志帆

ふらのねむりよきつらき月夜に
 ときをながらひてはるかなる
 の光

人二
安田 裕美子
4

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学
小金 輝彦 2

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

加古 昇初 井上 梨沙

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

香竹 準二 三宅有里

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学
高杉 晶子
4

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

登米 佐藤 祐子 2

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学
桑原 実音

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学 準二 安藤 雅子

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学
鶴田 真奈美

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学
荒川 智美

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

横山 比嘉 和子 1

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

書学 初 伊藤 旭花

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

立親
片野 理子

わかよたれそ
つねならむう

唐扇 山田 菜穂子 3

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

子安 橋本 寛代 1

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

海光 初 竹内 真以子

みやまのきよまよ
はくはわの、れきあひにちちあ
るけさのうやまの、けさこひつ

わかよたれそ
つねならむ
和敬 星島智子

西宮 三橋 恵子

わかよたれそ
つねならむ
書学 星野正子

わかよたれそ
つねならむ
姉路 築谷学

わかよたれそ
つねならむ
書学 川島 徹

書学 西宮 三橋 恵子

水荃 山中 容子

書学 西宮 三橋 恵子

九書 山崎美須子

書学 西宮 三橋 恵子

水荃 河野 文雄

書学 西宮 三橋 恵子

茉友 菊島 克枝

書学 西宮 三橋 恵子

書学 久間砂登美

書学 西宮 三橋 恵子

味生 新山 千鶴

書学 西宮 三橋 恵子

書学 山根美枝子

書学 西宮 三橋 恵子

書学 植田由紀子

書学 西宮 三橋 恵子

淀川 酒井 芳月

書学 西宮 三橋 恵子

書学 鈴木 紫

書学 西宮 三橋 恵子

芳水 柴原かおる

書学 西宮 三橋 恵子

松 松本 春泉

書学 西宮 三橋 恵子

書学 西宮 三橋 恵子

書学 西宮 三橋 恵子

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
小嶺 藤原 智巨

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
大塚 華七 生首 俊彦

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
頸城 八鶴 崎 和 美

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 漢文 河村 恵子

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
宮城 俊 名 崎 翠 月

濃やかに初夏の
磯松山を
山吹の溪
川代 五 上 村 芳 沙

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 華七 清野 有 礼

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
堀 本 英 八 中 村 楓 香

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 漢文 川 瀬 英 之

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
新 書 金 文 宮 城 原 湖

濃やかに初夏の
磯松山を
山吹の溪
書学 五 小 形 久 美 子

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
宗 大 掃 崎 春 陽

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 華八 細 若 了

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 漢文 井 上 澄 湖

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
東 本 俊 熊 聖 心

濃やかに初夏の
磯松山を
山吹の溪
和 田 圭 馬 場 雅 子

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
紅葉 六 竹 入 絹 代

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
書学 七 金 沢 宗 映

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
MM 甲 全 友 日 山 英 鳥

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
西 宮 朝 日 金 文 三 橋 五 子

濃やかに初夏の
磯松山を
山吹の溪
社 務 準 五 清 水 一 子

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 準 六 藤 村 あ け 木

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
大 来 七 高 村 光 倫

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
山学 八 和 久 津 玉 峰

南風吹けば
熊野より来る
こま鳥の
こまうつくしき
山吹の溪
天 草 朝 日 金 文 黒 川 良 子

書学
林公美
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

書学
小泉一のぶ
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

昭島
中村恭子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

三花
三 藤原美佐
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

島川
中山由美
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

藤
佐々木美香
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

セン
中村美香子
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

書学
泉美香子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

書学
佐藤郁子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

三原
四原日富美子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

書学
安藤雅子
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

音空
高橋志美子
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

梧星
横本啓子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

万葉
西原恵子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

生山
岸田弘水
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

津
園田恵
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

書学
川崎清貴
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

南卓
友田将子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

梧星
二 高橋ま子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

シヨ
保坂節子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山をゆけば
うれしも

書学
西山京子
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

青花
安畫園子
風に乗って
軽くのー行く
燕かな

書学
津初 加藤詩道
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

スー
石田佳子
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

きー
藤浪有香
濃やかに初夏の
日のこぼれくる
磯松山を
ゆけばうれしも

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

九書 木下 楽堂

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

水荃 佐藤 孝子

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

青井 今野 美晃

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

水荃 川上 直子

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

平泉 千葉 方彩

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

M M 千葉 伶華

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

大井 竹藤知津子

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

書学 藤田 理佳

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

市書 森 留美

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

仙水 天艸久美子

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

水荃 中村真由美

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

書学 和久津久美

はつ夏の山の中なるふる寺の
古塔のもとに 立ち旅びと

西湘 瀬戸 裕江

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

書学 金沢 千尋

吾子三たり庭を駆けつおのづから
長迅くして末はこゝろびね

万里 神之田澄水

風に乗って
軽くのー行く
燕かな
月光 松田 昭子

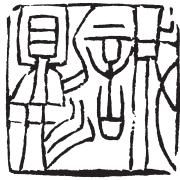
風に乗って
軽くのー行く
燕かな
書学 葉山 敬子

風に乗って
軽くのー行く
燕かな
書学 星野 亜子

風に乗って
軽くのー行く
燕かな
荃崎 坂上幸智子

風に乗って
軽くのー行く
燕かな
中の 齋藤千亜紀

書学



金丸 洋輔

徐三庚を模した作品。鋭い刀法による力強い細線が作品を際立たせている。繊細さと豪快さを兼ね併せた秀作。

新書



宮城 康湖

縦の界線による空間の引き締めが巧みで章法刀法共に秀逸。「誠」の傍である「成」の字形に研究の余地を感じる。

春日



曾我 卓史

「誠」の偏旁を縦に並べた章法により朱白の対比が鮮明になった。刀法は鋭く冴えているが、起筆の表情については更なる工夫が望まれる。

書学



高見 敏久

堂々たる白文と繊細な朱文が見事に調和して理想的な朱白相間を成している。全体に温雅な雰囲気漂い、気品溢れる作。

規定 「誠則形」

審査評—秋山 凌雲

随意 「書眠夕寐」

チカミンセキビ

教習名	田石	金子	大塚	榎本
氏名	石田穂花	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	日報	金子	大塚	榎本
氏名	鳩岡淳子	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

文庫名	天草	金子	大塚	榎本
氏名	新 幾子	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	唐扇	金子	大塚	榎本
氏名	原田清華	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	書学	金子	大塚	榎本
氏名	川村三彩子	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	ぬま	金子	大塚	榎本
氏名	齊藤和青	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	九書	金子	大塚	榎本
氏名	山崎美須子	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

教習名	かろ	金子	大塚	榎本
氏名	久富幸好	川村河本 木村	岡田加藤 柏原	遠藤小川 大久保

反佛讚言善哉善哉普賢汝能護助是經
 令多所衆生安樂利益汝已成就不可思
 功德深大慈悲從久遠來發阿耨多羅三
 藐三菩提意而能作是神通之願守護是
 經我當以神通之力守護能受持普賢善
 薩名者普賢若有受持讀誦正憶念脩習
 書寫是法華經者當知是人則見釋迦牟
 尼佛如從佛口聞此經典當知是人供養
 釋迦牟尼佛當知是人佛讚善哉當知是
 人為釋迦牟尼佛手摩其頭當知是人為
 釋迦牟尼佛衣之所覆如是之人不復貪
 著世樂不好外道經書手筆亦復不喜觀

習志 安廣 清翠

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 小島 黄雪

反佛讚言善哉善哉普賢汝能護助是經
 令多所衆生安樂利益汝已成就不可思
 功德深大慈悲從久遠來發阿耨多羅三
 藐三菩提意而能作是神通之願守護是
 經我當以神通之力守護能受持普賢善
 薩名者普賢若有受持讀誦正憶念脩習
 書寫是法華經者當知是人則見釋迦牟
 尼佛如從佛口聞此經典當知是人供養
 釋迦牟尼佛當知是人佛讚善哉當知是
 人為釋迦牟尼佛手摩其頭當知是人為
 釋迦牟尼佛衣之所覆如是之人不復貪
 著世樂不好外道經書手筆亦復不喜觀

岩手 渡辺 泰安

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 山根美枝子

反佛讚言善哉善哉普賢汝能護助是經
 令多所衆生安樂利益汝已成就不可思
 功德深大慈悲從久遠來發阿耨多羅三
 藐三菩提意而能作是神通之願守護是
 經我當以神通之力守護能受持普賢善
 薩名者普賢若有受持讀誦正憶念脩習
 書寫是法華經者當知是人則見釋迦牟
 尼佛如從佛口聞此經典當知是人供養
 釋迦牟尼佛當知是人佛讚善哉當知是
 人為釋迦牟尼佛手摩其頭當知是人為
 釋迦牟尼佛衣之所覆如是之人不復貪
 著世樂不好外道經書手筆亦復不喜觀

書学 浅野 春岳

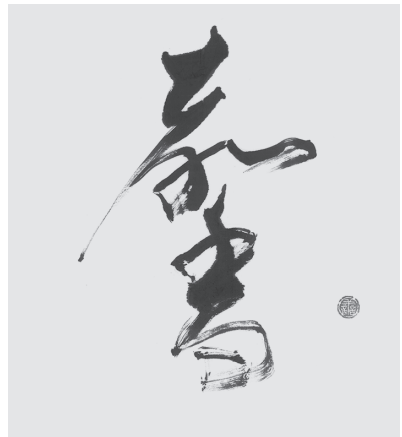
摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
 罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 遠藤 志帆

規定

(馨) 文字の大きさ、布置きを工夫され、運筆の変化を試みた構成作品が多く見られました。

審査評—立川 井梧



大門 難波 佳代 白黒の世界一体化で気力、気格勇壮にし、筆のタッチ重量感に富む見事な作。印影はハッキリと見せたい。

書学 藤森 泰明 筆捌きによる運筆と筆鋒の展開は見事である。ただ、概形の傾き過大の表現には右下部余白美の工夫が必要と思われるが如何か。

伊賀 山田 善永 中央部に立つ造型は、線質の自在の表現により緩急抑揚、線のリズムが冴え情趣をもつ作。左斜めの線は沈めてほしかった。

桑原 佐伯 政子 筆脈貫通された運筆は、筆圧の変化に転折の呼吸が快い。香の表現力は優れている。声の草略は硬いようだ。

随意

(ゆ) 筆の動きによっては、平かな「ゆ」は、漢字草書体「ゆ」(申)に、漢字「由」は草書体「ゆ」(申)と疑われる結体作品が多く目につきました。

審査評—立川 井梧



三重 大黒 海石 穏健にみえるも運腕大にした字形は安定し、流れよく暢達させた。余白を生かした見事な作。雅印大きさを考えたい。

こず 北田 愛実 漢字書の線質で字形の筆捌きはダイナミックで大胆。筆勢と表現力の強さは抜群。渴筆線の表情は効果を高めた。

松 角田 茅水 淡墨とした明快な線質は、線に太細大小の変化の動きを表わした。特に細い線と最終縦画の渴筆が印象的である。

書学 海老原麗子 二本の筆で表現した線質は、強さと荒さを見せ、闊達感ある一筆書きの作。紙面構成と押印位置は適当である。